

分散型地域づくりの考え方について

コロナ禍における地域づくりの「現状と課題」

- 新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式など社会が大きく変化
- アフターコロナの社会環境変化に対応した地域づくりの推進が必要
- 外からも内からも、分散の考え方が、今後の行政上の重要な政策課題としてクローズアップ

本市が地域づくりを進めていく上での重要な考え方の1つ

分散型地域づくり

これを踏まえて

今後の対応

○第2次那須塩原市総合計画後期基本計画及び各部門別計画*の次期計画は、「分散型地域づくり」の考え方も踏まえて策定

部門別計画* 各部局において施策分野ごとに作成する計画

後期基本計画への具体的な位置付け

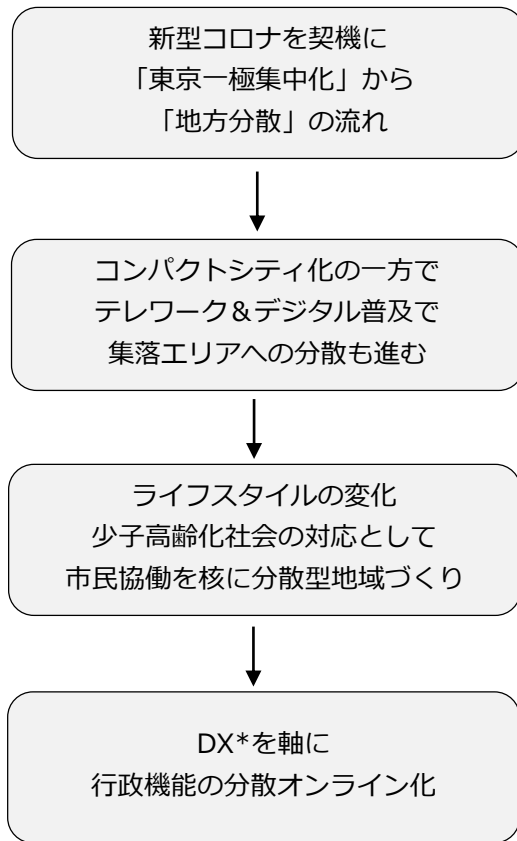
○例えば、重点プロジェクト*に位置付けるなど、施策横断的な市の重要課題への対応策の1つとして定めることを想定

重点プロジェクト* 前期基本計画においては、基本構想で定めた市の将来像の具現化、県北地域の中心都市となるためのステップとして、特に力を入れて推進する施策横断的な取組として4つのプロジェクトを設定

分散型地域づくりの方向性

地域に密着した市民サービスを第一に考え、公民館等にDX*を軸とした「分散型」による市民サービスに係る行政機能の充実を図ると共に、「東京一極集中から地方分散」の受け皿となる交流・教育・ビジネス協業の拠点づくりを目指す

アフターコロナの 社会環境変化



分散型地域づくりの方向性

- 1 公民館などに
(仮称) 地区市民サービスセンターを構築
- 2 公民館などにDX*を軸としたテレワーク分散環境を整備し
交流・教育・ビジネス協業の拠点とする
- 3 公民館などに防災避難拠点としての機能強化を図り
持続可能な「分散型地域づくり」を目指す

「分散型地域づくり」のイメージ

【外なる分散】

アフター・コロナにおける「東京一極集中」から「地方分散」への流れを引き込む



【内なる分散】 行政サービスを身近なエリアで受けられる

